

中学校区におけるめざす子ども像	自己を高めようと努力し、自ら学び続ける子
-----------------	----------------------

令和7年度 重点目標 若松台学校群として小小と小中における教育活動の連携をすすめ、持続可能な「新たな学校の在り方」を実現する。
 1.総合的な学力の育成:学びのコンパスを参考にした子どもが「学ぶことを喜び」授業づくり
 2.豊かな心の育成:校内はもちろん、学校群でも児童同士がつながる機会を多く持つ。また、国際理解教育を含む豊かな心を育てる教育活動を展開し、人権尊重の精神を育む。
 3.健やかな体の育成:体力向上に向けた取り組みを実施する。また、家庭と連携し、睡眠教育を中心に自らの生活を見なおし、規則正しい生活を送ろうという意識を涵養する。
 4.「つながる教育」「ひろがる教育」の推進:保幼小、小中の教育の連続性を大切にし、学校群の枠組みを活用して交流やつながる機会を多く持ち、自他を尊重する心を育む。学校群の教職員が連携し、若松台学校群の児童生徒を育成する。

<p>【確かな学びの現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習面では、授業で学ぶことは楽しいと感じている児童が約90%いる。また、友達と学ぶことは楽しいと感じている児童は約95%いることから、学校で学ぶことに前向きな姿勢がうかがえる。一方で、どの教科でも楽しさを見つけていると答えた児童の割合は約79%とやや低く、どの教科においても学ぶ喜びを感じることができるような授業づくりが必要だと考えられる。 家庭学習では、自分から進んで勉強している児童の割合は、約88%であるが、家で計画を立てて勉強している児童の割合は約60%であり、学校でも計画的に学習を進める授業の工夫が必要だと考えられる。 各種学力調査の結果から、複数の情報を取捨したり関連付けて考えることに課題がある。学びのコンパスを基にした授業づくりに取り組みながら個別最適な学びと共同的な学びの一体的な充実に向けて支援教育と関連付けた授業づくりに取り組む。 	<p>【豊かな心の現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 他者に対する親切心は非常に強い。更に思いやりの心を醸成するためには、様々な他者と関わり合い、相手を知り受容することを大切にすると共に、自己肯定感を高める取り組みも必要。 <p>【健やかな体の現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度は睡眠の大切さを意識できるよう児童への啓発をおこない、保護者も巻き込んで生活リズムを見なおす機会を作った。
---	--

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～10月)		達成状況(年度末)	
									自己評価	学校関係者評価
確かな学びの向上	総合的な学力の向上	自主的な学習習慣の定着	家庭と連携をしながら、計画を立てて勉強する習慣が身につくように宿題を工夫する。	「家で計画を立てて勉強している」児童75%以上(4～6年)	学校教育アンケート	年度末	B	肯定的に回答した児童(4～6年)の割合は67.1%であった。	B	肯定的に回答した児童(4～6年)の割合は58.0%であった。
		学習指導の改善	●子どもが学ぶことを喜び、子どもが自ら学びを進める力を培うために、学びのコンパスを基にした授業づくりを行う。 必要に応じて正しくパソコンを活用できる習慣作りにむけ、児童用端末活用系統表に基づいて、1人1台端末の活用をする。	「学ぶことが楽しい」と答えた児童90%以上(1～6年) 「パソコン活用の習慣作り」で80%以上の回答	学校教育アンケート 学校教育アンケート	年度末 年度末	A B	肯定的に回答した児童(1～6年)の割合は93%であった。また、友達と学ぶことは楽しいと肯定的に回答した児童の割合は93.7%で、77.1%の児童が強い肯定の回答をしている。 肯定的に回答した児童(1～6年)の割合は71.3%であった。1年生の活用がまだスタートしていないことが影響している。	A B	肯定的に回答した児童(1～6年)の割合は94.4%であった。また、友達と学ぶことは楽しいと肯定的に回答した児童の割合は97%であった。 肯定的に回答した児童(1～6年)の割合は78.3%であった。1年生の活用がまだスタートしていないことが影響している。
	学校群	学力向上	●支援教育の視点を取り入れながら配慮を要する児童を含むすべての児童が自分にあった方法で学べる授業づくりを行う。	「授業では自分のペースで学べている」と答えた児童90%	学校教育アンケート	年度末	A	定的に回答した児童(4～6年)の割合は92%であった。	B	定的に回答した児童(4～6年)の割合は87.9%であった。
豊かな心の育成	豊かな心の育成	相手を思いやる心、簡単にあきらめない強い心の育成	誰もが安心して過ごしやすい集団作りのために、マイノリティの立場に立った実践を行う。	「思いやりをもって人に接している」と答えた児童の割合90%以上	学校教育アンケート	年度末	A	定的に回答した児童(1～6年)の割合は93.4%であった。	A	定的に回答した児童(1～6年)の割合は100%であった。
			道徳的心情を高め、集団生活等への実践へとつなげ、思いやりの心を育成するため道徳教育を実践する。	参観やオープンスクールでの道徳授業の公開を年1回以上行う。	参観授業の実施	参観時	A	1、2学期の参観およびオープンスクールで実施した。	A	1、2学期の参観およびオープンスクールで実施した。
			自己と他者への理解を深めるため、啓発授業や支援学級との交流を行う。	自己と他者への理解が深まったと感じたと記述した児童のふりかえり	ふりかえりシート	授業・交流時	A	それぞれの違いについて考えたり、すべての人が過ごしやすい社会の仕組みについて考えることができていた児童が多かった。また、困っている人がいたら助けたい役に立ちたいという気持ちが多かった。	A	それぞれの違いについて考えたり、すべての人が過ごしやすい社会の仕組みについて考えることができていた児童が多かった。
			分からないことにあきらめずに学び続け、協働的な学びを組織することで、間違いやわからなさを大切にす授業づくりを行う。	「やると決めたことは、最後までやりとげようとしていますか」と答えた児童の90%以上	学校教育アンケート	年度末	B	肯定的に回答した児童(1～6年)の割合は89.1%であった。	B	肯定的に回答した児童(1～6年)の割合は88.4%であった。
			児童の困り感などの早期発見・早期解決をめざすため、生活アンケート(年3回)の実施とその結果の聞き取りや、情報共有を行う。	「学校は安全で安心できる場所である」と答えた児童の割合90%	学校教育アンケート	年度末	B	肯定的に回答した児童(1～6年)の割合は85.3%であった。	B	肯定的に回答した児童(1～6年)の割合は85.2%であった。
			朝礼などで「はあと」の取り組みを報告、指導したり生活目標に組み込んだりして都度啓発していく。	「『はあと』の取り組みをがんばれている」と答えた児童の割合80%	学校教育アンケート	年度末	A	肯定的に回答した児童(1～6年)の割合は89.1%であった。	A	肯定的に回答した児童(1～6年)の割合は85.3%であった。
健やかな体の育成	健やかな体の育成	体力の向上と基本的な生活習慣の定着	総合的な体力向上のために、重点月間を設定し、取り組む。	重点月間の取り組みを意識した児童の割合80%	学校教育アンケート	年度末	B	肯定的に回答した児童(1～6年)の割合は72%であった。高学年になるにつれて意識がやや低い傾向がある。	B	肯定的に回答した児童(1～6年)の割合は64.4%であった。高学年になるにつれて意識がやや低い傾向がある。
			健康な生活を送るにはどうすればよいかについて学ぶために、発達段階に応じた保健指導を行う。	各学年において3回以上実施	実施報告	年度末	A	現在、身体測定や朝礼時において各学年に応じたすいみん等の保健指導を実施している。	A	現在、身体測定や朝礼時において各学年に応じたすいみん等の保健指導を実施している。
			●健やかな体と豊かな人間性を持ち、睡眠の大切さを意識できるようにする。	「普段睡眠について考えることがある」と答えた児童の割合80%	学校教育アンケート	年度末	B	肯定的に回答した児童(1～6年)の割合は68.8%であった。高学年になるにつれて意識がやや低い傾向がある。	B	肯定的に回答した児童(1～6年)の割合は68.3%であった。高学年になるにつれて意識がやや低い傾向がある。
学校独自の取り組み	信頼される学校	学校における安全指導・安全管理の徹底	自他の安全に気を配ることができる資質・能力を育てるために、安全学習を実施する。	学校安全計画に基づき、安全学習に年3回取り組む	児童の様子	年度末	A	地震・火災の避難訓練、不審者対応訓練、緊急時下校訓練を実施。また職員研修として救急蘇生法やシミュレーション訓練を実施してい	A	地震・火災の避難訓練、不審者対応訓練、緊急時下校訓練を実施。また職員研修として救急蘇生法やシミュレーション訓練を実施した。
		家庭、地域に開かれた学校づくりの推進	教育活動の現状と成果を地域や家庭に共有するため、学校HP、校報、学年通信などを活用した発信を行う。	「学校は、学校HP、校報、学年通信等を通じて、子どもたちの様子や連絡事項の発信に努めている。」と答えた家庭の割合90%以上	学校教育アンケート	年度末	A	今年は年度当初からパスワードをかけることで、HP掲載同意者が増加した。また閲覧数は、平日平均130回程度で、昨年度と同程度である。	B	「学校は、学校HP、校報、学年通信等を通じて、子どもたちの様子や連絡事項の発信に努めている。」と答えた家庭の割合88%であった。
		★児童の交流を意識した教育活動の実践や学校群でカリキュラムマネジメントの充実や働き方改革に取り組む。	実施状況 学校教育アンケート	学校教育アンケート	年度末	A	昨年度の実践に加えて今年度上半期に新たに取り組んだこととして、小中の教員の授業参観の実施計4回を行った。また、小学校間では研究授業を全教職員で参観し、取組を拡充して行っている。	A	学校群で交流することが定着してきた。子どもの交流に加え、外国語のカリキュラム作成に取り組むなど、教員の交流や仕組み構築に取り組むことができた。	

<p>校長より(年度末)</p> <p>「家で計画を立てて勉強している」という項目への肯定的回答率が伸び悩んでいることから家庭と学校が協力し、ICTやAIを適切に活用しながら、学習に自ら計画的に取り組む力を育てていきたい。 「普段睡眠について考えることがある」という項目については、家庭が朝の起床を支える姿勢を大切にしつつ、高学年のSNS・ゲーム利用を含めた生活全体のバランスを考えたり、自らの生活をふりかえったりする機会を定期的に持つていく。 物の所有や扱いに関する価値観が未発達な児童が多く見られるため、その背景を探りつつ、家庭・地域との連携を図りながら適切な指導の在り方を検討する必要がある。</p>	<p>学校関係者評価者から(年度末)</p> <p>【成果】 ・家庭や地域と連携しながら児童を育もうとしている。学校が児童の状況に対して取組、発信していることが評価できる。また学校群での取り組みが充実しており、各学校の状況に応じて協力体制が構築できていることは本校にとってもメリットが多く特筆すべき事項である。またシミュレーション研修や緊急時引き渡し訓練などの緊急時の対応について工夫して取り組んでいる。 【課題】 ・スマートフォンやゲームの使用と睡眠、計画的な家庭学習など、児童の生活に関する事項を総合的にとらえて対応を検討することが重要。</p>
---	--